

「藤沢地区郷土づくり推進会議」広報紙

明日を創る

発行 藤沢地区郷土づくり推進会議
事務局 藤沢公民館(☎0466-22-0019)

ご挨拶 藤沢地区郷土づくり推進会議 議長 廣瀬 宣昭

地域の皆様には藤沢地区郷土づくり推進会議(以下「推進会議」という。)の活動にご理解頂き、多くのご支援ご協力誠に有難うございます。

この2年間、コロナ禍が収まらず推進会議もいろいろな制約を受けましたが、藤沢地区全体集会を2年ぶりに開催することができ、地域の皆様と情報共有することができました。また、新しい取組として、地域の情報や課題をより詳細に提供できるよう、推進会議のWebページの開設を行いました。今後とも皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

Web ページの開設について

広報委員 米井 健将

この度、推進会議を皆様にご覧頂くためにWebページを作成しました。活動の報告や、皆様からのご意見を頂戴できればと思います。

二次元コードの読み取りや藤沢市HP藤沢地区郷土づくり推進会議のページからアクセスできます。是非ご覧ください。

またはこちら
から読み取り



藤沢地区全体集会の報告



2022年12月18日に藤沢地区全体集会がFプレイスで開催され、推進会議の1年間の取組について、推進・活動両部会長により報告が行われました。

推進部会高野部会長からは、藤沢宿ビジョンとして、景観維持・桔梗屋の利活用を進め、「藤沢宿を知ろう、守ろう、伝えよう」活動に関する提言を行っているとの報告がありました。

活動部会石井部会長からは、子どもの見守り活動、高齢者見守り活動における喫緊の課題と対応、2025年以降の認知症高齢者の推移・支援サービス対応等について報告がありました。

会場には33名の地域の方々が出席され、「高齢者の外出の便を図って欲しい」、「藤沢宿のイメージを維持する努力をして欲しい」等の熱心な質疑応答がありました。

来場者アンケートには、歴史の街の存続継承や認知症対策の実行を要望する声がありました。

令和4年度活動報告 栃木市とちぎ蔵の街 視察研修

2022年11月22日、15名のメンバーで、日光例幣使街道の宿場町、巴波川（うずまがわ）沿いに栄えた商家群、蔵の街大通り等を視察しました。ここは現在、重要伝統的建造物保存地区となっています。

江戸時代よりの豪商屋敷・白壁土蔵・出身文化人関係文学館・店蔵を利用した市民ギャラリー・物産館・食事処等が整備されています。栃木市は「誇れるまちづくり」として2001年から約10年間、市民と行政との二人三脚で以下の重点策を実施して現在に至っています。

- 1 街並み景観修景事業：蔵の街としての外観をとり戻す
- 2 大通りシンボルロード整備：電線地中化や歩道橋の撤去
- 3 回遊ルート整備：歩道の石畳化、歴史的建造物の回遊ルートの整備
- 4 広場・ポケットパーク整備：駐車場を兼ねた広場や休憩所の整備
- 5 街並み環境整備事業：緑地整備、蔵の街サインなどの街並み環境整備

さらに、新たなまちづくり推進として国土交通省選定の「地方再生コンパクトシティ」として活動を行っています。藤沢市の3分の1ほどの人口の街ですが、欠けている機能を実現するため、市民の熱意は藤沢市の3倍は感じるように感じました。



令和4年度活動報告 活動部会 部会長 石井 昇

① VR体験型認知症フレンドリー講座の実施

藤沢市市政運営の長期課題である85歳以上の人口が最大となる2040年以降に向け、地域の中で見守りの必要性が増していくこと、高齢者の増加に伴い認知症高齢者の増加も予想されることから、認知症が正しく理解され、住み慣れた地域で安心して暮らせる藤沢の実現に向け、未来を担う若者（大清水中学校3年生）を対象に、認知症の理解促進を図る取組を2月21日に実施しました。



② コロナ禍ではありましたが、2022年7月21日に藤沢市社会福祉協議会CSW伊藤氏の協力を頂きながら認知症サポーター養成講座を開催する事が出来ました。当日はスクリーン講義のほか、認知症とされる人の料金支払い状況の実務体験など、参加型の講習会となりました。



- ③ 2022年10月15日～16日に、3年ぶりに開催の公民館まつりに参加協力ができました。当日の模擬店はコロナ禍での開催状況のため、過去実施の飲み物販売から、当てくじに変更をしました。

『模擬店』

1日目の様子



2日目の様子



- ・2日間場所を変えての販売をしました。
- ・販売は好調で2日目の午前中には完売となりました。

『展示物』



部会員による展示（マップと見守り）の説明を実施しました。

令和4年度活動報告 推進部会 部会長 高野文夫

政策提言「藤沢宿活性化ビジョン6つの提言」（2022年3月30日提出）に対する市長からの回答（9月15日付）を受け、今後の進め方を報告します。

この政策提言は、藤沢宿づくりの実現のためのコンセプトとして①藤沢宿歴史文化資源の保全と適切な活用②地域住民の郷土愛の醸成・継承③後世につなぐ藤沢宿の伝承④藤沢宿エリアの可視化と周遊性の向上⑤XRなどの先端技術を活用した藤沢宿のPR⑥藤沢宿を活用した賑わいの創出—以上6つを掲げたものです。提言書内容、市からの回答内容等については推進会議ポータルサイトをご覧ください。

〈提言1〉「デザインマンホール蓋」の設置

～歩道上の下水道マンホール蓋を、藤沢宿を醸すデザインに順次変更する

【デザインイメージ】



（市からの回答）デザインマンホール蓋への変更は一つの良いアイデアであるが、経費等の面から難しい状況である。県から下水道事業PRの一環としての提案もあり、調整を始めたところで、承知していただければと考えている。

（推進会議の今後の進め方）各自治体でも「マンホール蓋」設置と併せて「マンホールカード」発行が話題になっています。市民への下水道事業の発信にあわせて藤沢市が主体となった藤沢宿の「見える化」施策として取組を進めるよう、引き続き所管課と協議していきます。

〈提言2〉「藤沢橋自動車排出ガス測定局」周辺の敷地を活用した散策者誘導策の検討

～「江の島一の鳥居」があった藤沢宿の中心地であるこの敷地について、短中長期的な散策者誘導策として、道標などの有効活用や簡易ベンチを設置する



（市からの回答）この敷地は県が管理する稼働中の施設用地であり、利活用は現時点では難しいと聞いている。道標や案内板等の効果的な連動策については引き続き検討していきたい。

（推進会議の今後の進め方）藤沢宿の歴史を語る中心地であったことから、中長期的な有効活用の方策検討を要請。交差点際のものであり、景観面から緑地整備や簡易ベンチ設置について県との協議を進めて頂くよう所管課に要請していきます。

〈提言3〉「歩道景観」への取組

～旧宿場道へ「街道道標碑」等を設置した藤沢宿の「見える化」

（市からの回答）歴史的箇所には既に説明板などがあり新設は難しいが、案内看板・サイン・路面標示などは、補修の機会等を捉え変わりゆく街並みにおいても効果的なものとなるよう検討していく。

（推進会議の今後の進め方）「歩道景観」の観点から枯れた街路樹の空きスポットを利用した「街道道標碑」等の設置や、藤沢宿「見える化」策について引き続き要請していきます。



〈提言4〉「藤沢宿案内看板」の設置

～旧藤沢宿入り口である小田急線藤沢本町駅への案内看板等の設置

（市からの回答）藤沢宿エリアの案内看板等については、藤沢駅や藤沢橋、白旗神社、藤沢本町駅西側の新設駐輪場等に設置してあるため、藤沢本町駅前への設置はない。

（推進会議の今後の進め方）藤沢本町駅は散策者集合場所として利用されているため、案内看板は必要であることから、引き続き所管課と折衝を進めます。



〈提言5〉「旧桔梗屋」建物の利活用検討

～旧桔梗屋は藤沢宿を語る唯一の商家であり、商家の姿を直に見学できる仕組みとした「藤沢宿語る館」的機能を擁した利活用

（市からの回答）旧桔梗屋は藤沢宿のシンボリック存在で、景観上重要な拠点であるので街並み保全とともに地域の賑わいの創出や活性化に向けて利活用したいと考えている。

（推進会議の今後の進め方）藤沢宿唯一の商家の姿を直に学べる仕組みや宿の歴史を伝える「藤沢宿語る館」としての機能づくり、藤沢宿活性化への行程づくりを求めています。



〈提言6〉「藤沢宿を知ろう、守ろう、伝えよう」の提起

～地域の方への郷土を学ぶ取組

（市からの回答）有識者を交えて論議する場を設けることは、郷土愛の再認識と醸成に資する取組であると認識しており、「藤沢地区郷土づくり推進会議」の中で実施できるように支援していく。また、地区内小学校等の協力を得ながら進めていく。

（推進会議の今後の進め方）自治連・自治会・町内会での宿勉強会の支援を行い、地域をあげて「藤沢宿を知り、守り、伝える」取組を進め、「この地に生まれ、学び、育つ」小中学生の支援、「公民館まつり」等のイベント時にパネル掲示等を行います。

直近の取り組み

- ① 「公民館まつり」等でパネル掲示しました。
- ② 藤沢橋自動車排ガス測定局周辺の緑地整理の手伝いをしました。
- ③ 藤沢小学校4年生(111名)「藤小昔たんけん」の学び支援として、「藤沢宿」の解説と生徒のまち学び「昔たんけん」当日の支援を行いました。
- ④ 明治小学校6年生「藤沢宿PR学習」の中間報告会、最終報告会に参加しました。

①



②



③



④

